

# 教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割

— 2008 年度（第 2 年次）研究活動報告 —

鈴木そよ子・他

## はじめに

神奈川大学教職課程では、2007 年度から神奈川大学共同研究奨励助成金を得て、3 年間の計画で、共同研究「教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割」を進めている。

共同研究グループのメンバーは、人間科学部教授・河上婦志子、同学部教授・入江直子、同学部教授・大西勝也、同学部教授・古屋喜美代、同学部助教・間山広朗、同学部特任教授・岩澤啓子、経営学部教授・関口昌秀、同学部教授・鈴木そよ子という横浜キャンパス、湘南ひらつかキャンパスの教職課程担当教員全員である。

共同研究の研究目的、3 年間の全体計画、2007 年度の活動の詳細は、鈴木そよ子・他『『教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割』について』（『神奈川大学 心理・教育研究論集』第 27 号、2008 年 3 月、pp. 111~121）を参照されたい。

本稿では「2007 年度共同研究奨励助成金研究経過報告書」にもとづく内容（1~5）と、2008 年度の共同研究活動の全体構成（6~7）を示す。本年度の研究内容検討の基礎資料とすると同時に、共同研究の最終年度となる 2009 年度の教員養成・教員採用試験・現職教育を貫くプランづくりを的確に遂行するためのものでもある。

なお、本稿では、本年度の研究計画の 3 本の

柱のうち、インタビュー調査を中心にまとめるが、本年度の研究活動の全体については、2008 年度研究報告書でまとめられる。

## 1. 2007 年度の研究目標

2007 年度は、以下の 3 点を研究目標とした。

### (1) 質問紙調査

- ① 本学卒業生の現職教員を対象として質問紙調査を行なう。
- ② 調査の結果として、現職教員が研修の場として大学を捉えたときに、期待している内容を仮説として導き出す。質問紙では、「一般的に教師の力で不足していると思う点」「これまでのいくつかの研修で役立った程度」「今後受けたい研修の内容と方法」「研修に出席しにくい理由」と「大学で研修の機会があれば期待する内容や方法」「現在の課題」を尋ねる。

- ③ 仮説にもとづく研修の実施形態を構想し、インタビュー内容も確定する。

### (2) 学校ボランティア活動

- ① 横浜市立小学校 4 校（浅間台、寺尾、大口台、下末吉）、中学校 3 校（戸塚、松本、栗田谷）において学校ボランティアの活動に参加する。
- ② 学校ボランティア参加校との情報交換会を開催する。
- ③ 学校ボランティア活動に参加した学生の成長の振り返りと省察のなかから、教員と

してのキャリア形成の視点でその意義を捉える。

- ④ 1年間の活動について学生が報告し、自ら振り返る機会、体験を共有する機会を設けて、本人がどのように活動の意義を捉えているのかを把握した上で、共同研究のメンバーが考察を加える。

- ⑤ メンバーは報告書の一部としてまとめ、その内容について、全員で意見を交換し、これらを踏まえて、研究会としての考察とする。

(3) 法規上の詳細な確認、資料収集

- ① 教員免許状更新講習の趣旨を的確に捉えるため、答申や法令の動きを確認する。  
② 最近の教員養成・研修に関する国内外の議論動向把握のため図書資料を収集する。

## 2. 2007年度の研究の計画

(1) 本学卒業生の現職教員への質問紙調査の企画立案・実施・分析

横浜・湘南ひらつか両キャンパスの卒業生教員のうち、752名を対象とした質問紙調査を実施し、集計・分析する。7月下旬に質問紙を送付し、8月から9月上旬にかけて単純集計の準備をし、9月中旬には回答者の中から、インタビュー対象者を選び出す準備を進める。10月から3月にかけて自由記述も含めた回答の分析と考察を行なう。

質問紙はA3用紙両面1枚、大問8問の構成で、選択式と自由記述式の回答を併用する。質問紙の回答分析から教員の「声」を把握する。

また、現職教員にとって有意義な更新講習のあり方について考察する。

(2) 学校ボランティア活動に参加した学生の成長過程の分析

横浜キャンパスでは、学生が近隣の小中学校でボランティア活動を継続している。報告会や情報交換会を実施して、ボランティア活動に参加した学生の成長過程を記録し、分析する。

(3) 法規上の詳細な確認、資料収集

教員免許状更新講習に関して、文科省から大学(教務課)に送られてくる情報を確認するとともに、最近の教員養成・研修に関する和書・洋書を収集し、動向を把握する。

## 3. 2007年度の研究経過及び成果

(1) 研究経過

①研究会活動

\*は他の会議で集合した際に行われた内容

第1回 2007年3月15日

・共同研究の基本方針について

\* 2007年4月15日

・4月14日のプレゼンテーション報告

第2回 2007年6月20日

・質問案の分担・今後の研究会予定・紙面の基本構成

第3回 2007年6月27日

・申請書類関係

第4回 2007年7月4日

・質問紙調査のタイトル・プリテストの手配・封筒・質問紙作成他

第5回 2007年7月18日

・質問紙調査紙面の確定・お礼・督促を兼ねた葉書

第6回 2007年9月5日

・回答の一覧表の確認・分析対象の確定・単純・クロス集計の基本方針・回答の問別分析担当者決め・各問表・グラフの作成

第7回 2007年10月30日

・問2～問6の分析・ボランティア活動報告

\* 2007年11月28日

・質問紙調査依頼者全員に送付する「教員のキャリア形成についての調査集計結果報告」をメンバー全員に渡す。

\* 2007年12月19日

・第7回研究会で作成を依頼された114表をメンバー全員に渡す。

第8回 2008年1月30日

・発表「教員のライフステージと研修」・パネルディスカッションの企画

第9回 2008年2月16日

・神奈川大学教育研究交流会

テーマ：教員のキャリア形成を考える：卒業生からの提言

報告：卒業生に対する質問紙調査の中間報告と免許状更新講習

パネルディスカッション：教師としての学びと成長

第10回 2008年2月28・29日

・調査分析の検討・インタビューの計画・2007年度のまとめ

第11回 2008年3月27日

・2007年度報告書・インタビュー内容の打ち合わせ

## ②質問紙調査

2007年3月～6月

・共同研究の基本方針と計画

2007年7月

・質問紙調査実施計画・プリテスト・作成、送付作業

2007年8月～9月

・回答用紙の整理、集計

2007年9月～2008年3月

・回答の単純集計・クロス集計分析、分析内容の検討

## ③学校ボランティア活動

2007年3月

・学校ボランティア活動を開始

2007年5月25日、6月29日、10月5日、12月21日、2008年1月30日

・ボランティア活動報告会

・2007年7月20日・学校ボランティア受け入れ校との情報交換会

## (2) 社会的効果

教員の研修の場として大学を位置づけて、何ができるのか、何が望まれているのかを考察し、実際に研修の機会をつくる。教員養成から現職教育に至る教育改善を目的とし、教員養成課程を改善し、自らの企画を立ち上げるための調査研究である。この目的を提示すること自体

が、社会的意味を持つ。そして、大学を神奈川大学とすることで、限定性は生じるが、同時に具体性が生まれる。事例研究としての価値が高まる。

教員免許更新制が2009年度から実施されるタイミングでもある。試行として2008年度から文科省の指定を受けた大学での免許更新講習が実施される。「その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能の修得を図り、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指す」という目的のもと、10年ごとに30時間の講習を受けることで、教員免許状が更新される。この講習の主な担い手が大学となる。

教員は、多忙さとよりよいキャリア形成を渴望するジレンマの中にある。大学では小・中・高等学校の教員の評価を得て、受験希望者の確保につなげたいと望み、また、進学する学生のより高い意識と学力を確保するために、教員の日々の教育実践の質的向上をサポートすることが大切だと意識するようになっている。

免許状更新講習は、大学と教員のこれまで超えられなかった壁を突き崩し、連携するきっかけとして、意義が大きい。互いに有意義な講習、その後の連携を生み出す講習をつくり出すためのよりの確な内容と方法を導き出すためには、研究ベースでのデータ集計、分析と考察が欠かせない。本共同研究の調査結果から導き出された仮説はこの役割を担っている。

## 4. 2007年度の研究の残された課題

### (1) 質問紙調査

① 2007年9月から大問ごと（問2～問6）の単純集計およびクロス集計による分析を行った。大問ごとの考察は2008年3月でまとめ終えたが、複数の大問間のクロス集計と考察は、2008年度に行う。

② 問7・問8の自由記述回答について、2月28・29日の検討を踏まえて、分析の方法を検討した上で、考察を深める。

- ③ 大問ごとに、教員のキャリア形成とこれまでの研修の関係、これからの研修に期待するものを把握できた。次のステップとして、「教員のキャリア形成における神奈川大学の役割」を明確にするための作業を進める。研究会での集中的な検討と、さらに多くの資料やデータの収集、インタビューから得られる情報等をあわせて吟味する。
- (2) 学校ボランティア活動
- ① 学校ボランティアに参加した学生が、継続的に学習会に参加しやすい組織作りをする。
- ② 個々の学生の長期的成長過程を検討していく。
- (3) インタビューに向けての準備
- ① 大問ごとの分析から、さらに深めたい点をメンバーが持ち寄って検討する。この検討から、インタビューでの質問事項を確定していく。
- ② 対象者237名のうち、インタビュー対象候補者60名から、インタビュー実施者を確定し、実施準備を進める。
- (4) 免許状更新講習との関係
- 教員免許状更新講習の実施が確定したのは、本研究が始まってからであったが、教員研修の一つであり、直接大学が関わるものでもあるので、免許状更新講習に本研究の成果を活かせるように、2007年度の研究成果をまとめる。

## 5. 2007年度の研究発表

2007年度は、共同研究の初年度であり、研究成果を学会誌への投稿や学会での口頭発表ができる段階ではなかった。2008年度に行なう予定である。だが、研究の経過や質問紙調査の集計結果等は、各段階で報告してきた。これらを2007年度の研究発表とする。

### (1) 論稿

- ・河上婦志子・他「生徒の学び・学生の学び—中大連携の試み—」神奈川大学教職課程研究室『神奈川大学 心理・教育研究論

集』第26号, 2007.3, pp.83-98

- ・鈴木そよ子・他「共同研究『教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割』について」神奈川大学教職課程研究室『神奈川大学 心理・教育研究論集』第27号, 2008.3, pp.111-121

### (2) 口頭発表

- ・鈴木そよ子「報告—卒業生に対する質問紙調査の中間報告と教員免許状更新講習—」神奈川大学教育研究交流会 2008.2.16

### (3) その他

- ・神奈川大学・教員キャリア形成研究会「教員のキャリア形成についての調査 集計結果報告(問1~問6のうち数字による回答部分)」2007.12.1(単純集計による分析。質問紙調査対象者全員に送付)
- ・岩澤啓子『学校ボランティア情報交流会報告書』神奈川大学教職課程, 2007.7
- ・岩澤啓子「学生の成長を確認したときの喜び」『パイオニアスクールよこはま 神奈川大学・横浜市立松本中学校連携事業』横浜市立松本中学校, 2008.1

## 6. 2008年度の目標と計画

「2008年度共同研究奨励助成金支出計画書」において、4月の時点で届け出た、以下のような目標と計画にもとづいて、本年度の研究活動を展開した。

### (1) 目標

質問紙調査とインタビュー、学校ボランティア活動の実績にもとづき、キャリア形成の観点から、現職教員の研修と教員養成プログラムについて、神奈川大学の教職課程としてのプランを構想する。

### (2) 計画

- ① 2007年度の研究活動の報告書作成(質問紙調査・学校ボランティア活動)
- ② インタビュー調査の計画立案, 実施, 分析
- ③ 学校ボランティア活動の実践から省察に

いたる組織化

- ④ 研究成果のうち、免許状更新講習に関わる部分の明示
- ⑤ 教員養成・教員採用試験・現職教育を貫く神奈川大学プランの構想

## 7. 2008年度の研究経過

### (1) 研究会活動

- ① 4月18日 「2007年度 共同研究奨励助成金研究経過報告書(2007年度分)」他、学長事務室へ提出
- ② 4月30日 インタビュー調査の詳細確定・2007年度報告書完成版確認(TKP横浜西口ビジネスセンターにて)
- ③ 5月7日 共同研究「教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割」2007年度研究報告書(内部検討用)完成
- ④ 5月21日 インタビュー質問項目の検討・担当者からの提案・まとめ  
.....間山 広朗
- ⑤ 7月2日 インタビュー実施日の決定、インタビューア、インタビューイの組み合わせ、「質問項目について」およびスケジュール確認、お茶、菓子、軽食の手配分担
- ⑥ 7月16日 インタビュー組み合わせの変更、部屋の確定、インタビューイに手渡す文書の確認、財務部経理課と教職課程指導室が関わる謝礼の扱い確認
- ⑦ 10月26日 インタビュー個票、集団インタビューまとめ提出
- ⑧ 11月5日 インタビュー個票検討、まとめの視点・分担、今後のスケジュール確定
- ⑨ 12月17日
  - a インタビュー個票、集団インタビューまとめ

- ・調査の概要.....鈴木 そよ子
- ・学校の現状.....大西 勝也
- ・「壁」体験.....古屋 喜美代
- ・「壁」体験×研修体験ケーススタディ  
.....間山 広朗
- ・研修体験.....入江 直子
- ・今後の方向性(大学とのかかわりで)  
.....関口 昌秀
- ・集団インタビュー.....岩澤 啓子
- ・まとめ.....河上 婦志子

ただし、河上提案を受けて、「より広く、たとえば『教師としてのキャリア形成』といった視点から、いくつかのキーになる言葉や概念、経験やきっかけのようなものを見出して、それによって、教師のキャリアを分析する枠組みを発見してみるという作業」も進める。

また、同じく河上提案では、「研修体験」(入江)と「今後の方向性」(関口)のパートの重なりが多いことが指摘されている。「研修体験」では、アンケート調査データなどを多用して、分析的に、「今後の方向性」では、神大ならびに他大学の更新講習試行の結果などを参考にしながら、インタビューデータを土台に思い切った提言をするなど、工夫をする。

- b 神奈川大学の今後の取り組みに示唆を与えるインタビュー発言のチェック
- c 2008年度報告書・全体のまとめ
- d 2月19日・20日の合宿の企画
- e 会計報告
- f インタビューチェック済み原稿CD手渡し
- ⑩ 2月19日・20日(合宿)
  - インタビュー分析内容の検討・2008年度報告書検討・2009年度計画検討
- ⑪ 3月16日 2008年度報告書完成、インタ

ビュー分析報告の完成

- ⑫ 3月26日 2年間の研究活動の成果として、神大(教職課程)が取り組む活動の具体的プラン
- ⑬ 研究会ごとの資料作成補助……………鈴木 明

(2) 2007年度報告書作成作業

- ① 3月31日 全員の原稿が揃う
- ② 4月12日～5月9日 報告書のもくじ、体裁づくり諸作業  
……………鈴木 そよ子  
文章への表の組み込み・諸作業補助……………鈴木 明

(3) インタビュー関係活動

- ① 4月18日 2007年度実施アンケート調査の対象者のうち、インタビュー候補者60名の確定
- ② 5月10日～20日  
60名の名簿づくり、シールづくり  
……………山中 陽平
- ③ 5月20日～30日  
インタビュー依頼文  
原案……………鈴木 そよ子  
サポート……………岩澤 啓子  
添削……………関口・間山・古屋
- ④ 6月13日 60名に神大オリジナルしおりを用意・生協で購入  
……………入江 直子
- ⑤ 6月16日 インタビュー候補者60名への参加の有無と日程の伺い(封書)発送……………鈴木 そよ子

資料1 「インタビュー依頼文書」

資料2 「インタビュー日程(ご回答)」

- ⑥ 6月18日～30日 30名からの回答整理  
……………山中 陽平  
鈴木 そよ子
- ⑦ 7月5日 日程・計画をインタビューに発送  
……………鈴木 そよ子  
準備補助……………鈴木 明

資料3 「インタビュー実施日の通知」

- ⑧ 7月1日～25日 謝金の位置づけ、払い出し方法の打合せ、業者手配  
……………入江 直子  
間山 広朗  
野上 展子  
鈴木 そよ子

- ⑨ 8月1日 インタビュー変更点を盛り込んだ計画書の完成……………間山 広朗

資料4 「質問項目について」

- インタビューに手渡して説明する資料  
……………間山 広朗

資料5 「本日のインタビューについて」

- ⑩ 8月4日～22日 インタビュー実施。28名  
……………横浜教職課程指導室・野上展子他、室員の協力
- ⑪ 8月5日～9月29日 インタビューテープ起こし。9回に分けて納品。  
(有限会社・ウイズワード・勝間知子氏に発注)納品されたものからメンバーに添付メール

- ⑫ 8月25日 インタビュー個票フォーマット作成……………鈴木 そよ子
- ⑬ 9月1日～10月31日 インタビュー個票作成……………全員

資料6 「インタビュー個票フォーマット」

- ⑭ 10月12日～11月3日 チェック済み原稿加工……………鈴木 明
- ⑮ 10月15日 インタビュー音声DVD作成……………間山 広朗
- ⑯ 11月16日～12月10日 インタビューチェック済み原稿のプリントアウト、ファイル、インデックス等用意……………鈴木 そよ子  
補助……………鈴木 明
- ⑰ 11月5日～12月16日 インタビュー(個人・集団)の分担にもとづくまとめ作業、今後の取り組みにかかわる示唆の抽出  
……………分担にもとづき全員

⑱ 11月28日 インタビューチェック済み原稿CD作成 ……………鈴木 明

(4) 2008年度報告書作成作業

①文書への表組み込み作業……………鈴木 明

②「2008年度研究報告書」のために作成した表のうち、研究のまとめに向けて、グラフ化する必要のあるものをメンバーが選び、徐々にグラフ化作成補助作業……………鈴木 明

## 資料1 インタビュー依頼文書

梅雨の候、いかがお過ごしでしょうか。

去年は、アンケートにご回答いただき、ありがとうございます。お礼の気持ちを同封のしおりに添えてお届けいたします。さらに、インタビューをお受け下さるとご回答いただいたことを、嬉しく思います。

アンケートやインタビューから得られた大学に対する期待や要望を、これから本学で実施する教員免許状更新講習に生かして行きたいと考えますが、更新講習に限定することなく、継続的に先生方のサポートができるような体制作りを考えております。そのためにも、先生方の率直なお考えを伺いたいと願っております。

下記のような内容でインタビューを実施致します。別紙の回答用紙にご記入いただき、ご返送下さい。ぜひ、ご参加下さいますよう、お願い申し上げます。

### 記

#### 1. インタビューの日程：8月4(月)～8(金)／18(月)～22(金)

午前の部 (10:00-11:30 個別／11:30-12:00 集団／12:00-13:00 昼食)

午後の部 (14:00-15:30 個別／15:30-16:00 集団／16:00-17:00 軽食)

回答用紙の日程表で、ご都合の悪い日(「午前」「午後」)に×をつけて下さい。

#### 2. インタビューの内容

教職経験、研修体験、これから研修したいこと、大学に期待すること

#### 3. インタビューの方法

横浜キャンパス、湘南ひらつかキャンパスの教職課程担当教員が1対1形式で、個別にお話を伺ったのち、参加者が集まって議論をします。教職課程担当教員は、河上婦志子、入江直子、大西勝也、古屋喜美代、間山広朗、岩澤啓子、関口昌秀、鈴木そよ子です。

#### 4. インタビューの場所

横浜キャンパス

#### 5. 派遣依頼

インタビューにご協力いただくにあたって、勤務校への「派遣依頼」が必要な場合は回答用紙に送付先等をご記入ください。

#### 6. 回答の返送

6月28日(土)までにご投函下さい。急がせて申し訳ありません。

#### 7. 今後のスケジュール

7月6日(日)までに、確定した日程・計画をお届け致します。

以上

2008年6月16日

神奈川大学・教員キャリア形成研究会

代表・経営学部教授・鈴木そよ子

連絡先：〒259-1293 平塚市土屋 2946 神奈川大学湘南ひらつかキャンパス

Tel. 0463-59-4111 鈴木そよ子研究室 (内)2840

Tel. 045-481-5661 河上婦志子研究室 (内)4271

E-Mail : kyoushoku-toiawase@kanagawa-u.ac.jp



資料2 インタビュー日程 (ご回答)

2008年8月 インタビュー日程 (ご回答)

1. ご都合の悪い日 (午前・午後) に×をつけて下さい。

曜日	日	月	火	水	木	金	土
日		4	5	6	7	8	
午前							
午後							

曜日	日	月	火	水	木	金	土
日		18	19	20	21	22	
午前							
午後							

2. 御氏名・御連絡先

御氏名 \_\_\_\_\_

御住所 〒 \_\_\_\_\_

Tel. \_\_\_\_\_

E-Mail \_\_\_\_\_

勤務校名 \_\_\_\_\_

3. 勤務校への「派遣依頼」が必要な場合は、送付先 (勤務校住所) 等をお書き下さい。

宛先 〒 \_\_\_\_\_

発送日 (ご希望のある場合) \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日頃

4. メッセージ

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

6月28日 (土) までにご投函下さい。

資料3 インタビュー実施日の通知

〇〇〇 様

この度は、インタビュー日程についてのご返答をいただき、ありがとうございました。候補日の中から下記の日程に決めさせていただきました。ご多忙のところ、誠に申し訳ありませんが、どうぞ、よろしくお願い致します。

記

1. 日時： 8月4日(月) 9:50 集合
2. 集合場所： 横浜キャンパス 17号館 教職課程指導室
3. スケジュール： 10:00~11:30 個別インタビュー  
11:30~13:00 意見交換(含・軽食)
4. インタビューの内容： 教職経験、研修体験、これから研修したいこと、大学に期待すること
5. 当日の連絡先： 教職課程指導室 045-481-5661(内)4228

以上

付記

1. 当日、印鑑をお持ち下さい。
2. 「勤務校への派遣依頼が必要」とご回答をいただいている方の場合、若干の時間の延長を考慮して、「9:50~13:30 インタビュー及び討論」というスケジュールで、学校長宛に派遣依頼状をお送り致します。

2008年7月4日

神奈川大学・教員キャリア形成研究会

代表・経営学部教授・鈴木そよ子

連絡先：〒259-1293 平塚市土屋 2946 湘南ひらつかキャンパス

Tel. 0463-59-4111 鈴木そよ子研究室 (内)2840

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 横浜キャンパス

Tel. 045-481-5661 河上婦志子研究室 (内)4271

E-Mail: kyoushoku-toiawase@kanagawa-u.ac.jp

資料4 質問項目について  
インタビュー調査：質問項目（8/1版）

（※下記「質問例」につきまして、詳細は、5/21 会議時配付の各先生の資料をご参照下さい。）  
\*「本日のインタビューについて」を対象者に渡し、概要を説明する。

	質問事項	質問例・ポイント等	備考
0 導 入  10 分	0-1 属性の確認・聞き取り	氏名・地域・学校種・教科・年数（年齢）・役職・部活等	質問紙参照
	0-2 現場の現状	「今、先生の現場ではどのようなことが大変でしょうか？」	
	0-3 話題転換	「現状についてはまた後でもう一度お伺いしたいのですが、過去の問題についてから順番にお伺いできればと思うのですが。」等	
1 キ ャ リ ア 形 成  40 分	1-1 「壁」経験	「これまでに、『教師として壁にぶつかった』と感じたことはありますか？ 印象に残る時期を思い起こして頂き、当時のことを教えてください。」 ① 概要（いつ・どこで（学年等）・内容）②「乗り越え」のポイントは？「どのようにして乗り越えてこられたと思いますか？」（個人的力量・対生徒・保護者関係+職場の人間関係を想定）	話の展開次第で、教師になって「良かった経験」へ
	1-2 現在の職場の人間関係	①「教育実践について話し合う職場の人間関係はありますか？」 「無い」 相談できる人がいない、しにくい理由は？ 「ある」 世代は？（上・同世代） 相談内容は？（教科・生徒指導・対保護者） 上世代のどのような意見・助言に期待するか？（教科等の領域など） ②「職場での人間関係」や「相談」は、自分の力量形成にとって、どのような意味があるとお考えですか？	
	1-3 スキルアップ・力量向上について	①授業をよくするために、意識的に継続していることはありますか？ ②生徒を理解し、導くために、（特別に？）行っていることはありますか？	
2 研 修 に つ い て  40 分	2-1 良かった研修	①これまで受けたなかで良かったと思える研修はどのような研修でしたか？（内容・方法・講師・環境・日程・時間・人数等）また、それでもなお、改善すべき点はあると感じますか？ ②校内研修では、どのような校内研修が良かったと考えますか？	話の展開で、「良くなかった研修」も？
	2-2 今後、受けた研修	一般的な希望：どのような研修を希望しますか？（研修主体に応じて？）①内容（アンケートでは、「教科」「軽度発達障害」が多い）②方法（アンケートでは、「事例研究」「参加型」が多い）	
	2-3 大学の役割～更新講習へ	①卒業生の先生方に対して、大学にできる「ケア」や「役割」について、ご希望やご意見を伺いたいのですが。（「居場所」「ホーム」を想定？） ②大学に、どのような更新講習を期待しますか。（内容・方法等）	

資料5 本日のインタビューについて

2008年 月 日

神奈川大学 共同研究

「教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割」

代表：経営学部教授 鈴木そよ子

本日のインタビューについて

【本日の日程】

午前の部 10:00-11:30 個別／11:30-12:00 集団(17-301)／12:00-13:00 昼食

午後の部 14:00-15:30 個別／15:30-16:00 集団(17-301)／16:00-17:00 軽食

【インタビューの目的】

本インタビューは、「教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割」を検討する共同研究のために実施させていただきます(8月中に30名の先生方にインタビューする予定です)。

率直にご意見・ご助言をお話しいただければと思います。

【インタビュー録音のお願いとお約束】

個別インタビューと集団インタビューでは、長時間にわたりお話を伺うことに加え、お話の内容を共同研究メンバー間で正確に共有するために、録音をお許しいただきたいと思います。録音内容につきましては、個人情報保護の観点からプライバシーを保護することはもちろんのこと、先生個人ならびに勤務校関係者等の不利益となることがないように最大限注意を払い、研究目的以外に使用しないことを堅くお約束いたします。

【個別インタビュー内容】

0. 各種確認と現場の現状について

0-1 お名前・地域・学校種・教科・勤務年数(年齢)・役職・部活等

0-2 現場の現状について

1. キャリア形成について

1-1 教師としての「壁」の経験について(概要と「乗り越え」について)

1-2 職場の「人間関係」について

1-3 スキルアップ・力量向上について

2. 研修(一般)について

2-1 「良かった」研修について

2-2 今後「受けたい」研修について

2-3 先生が「大学の役割」として期待すること(全般的機能・教員免許状更新講習等)

資料6 インタビュー個票フォーマット

共同研究「教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割」インタビュー個票

インタビュー実施日・場所：2008年8月\_\_日 神奈川大学横浜キャンパス17号館

インタビューイ・氏名・年齢：No. \_\_\_\_\_ 歳

勤務校：\_\_\_\_\_

インタビュアー：\_\_\_\_\_

1. 学校の現状

2. 「壁」体験

3. 研修体験

4. 今後の方向性 (大学とのかかわりで)